

令和5年度学校評価

愛知県立熱田高等学校全日制課程

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>1 新学習指導要領実施2年目を迎え、3観点別評価と授業改善を推進する。 2 生徒の可能性を引き出し、生徒自らが将来を見据えて進路目標を設定するように導く。 3 日常の教育活動を通して規範意識を高め、命と人権を重んじる心を育成する。 4 HR活動や特別活動・学校行事等を通して、生徒の活力を引き出し豊かな心を育成する。 5 安全で安心できる学習環境の整備に努める。 6 会議の精選など業務改善を図り、効率的な学校運営に努める。</p>		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>学校総務 (総務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・式典での元気よい校歌斉唱 ・PTA 関連行事の精選 ・学習環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生音楽クラスの生徒は授業中に校歌練習を行う。 ・昼の校内放送で校歌のCDを流す。 ・式典中に生徒手帳を見て歌うように促す。 ・PTA 委員会や行事の開催回数、開催時期の検討を行う。 ・生徒の机や椅子の更新、カーテンの洗濯を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期集会で合唱部、教育実習生、校長先生に全校生徒の前で校歌を歌っていただいた。 ・回を重ねるごとに歌声が大きくなっている。 ・PTA 会長が、委員会の回数や開催時期、活動内容についてPTA 委員にアンケートをとり、次年度に向けて整備を進めている。
<p>学習指導 (教務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実現するために学習指導方法及び評価方法の工夫改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、学習指導方法及び評価方法の工夫改善に努め、生徒の学力の伸長を図る。 ・ICT を積極的に活用し、深い学びを実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程の授業のあり方や評価を軸に、授業改善や評価について話し合いを重ね、工夫改善を継続している。 ・タブレットやロイロノート等を活用し、主体的な深い学びにつなげている。 ・積極的な授業公開、参観により授業改善に努める一方、ICT を用いるだけではない授業改善も求められる。
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の立番と登校指導を通して、声を出して挨拶する習慣を身に付けさせる。特に、8時30分を越えて正門を通る生徒に積極的に声を掛ける。 ・遅刻入室カードを職員室に常置し、多くの教職員で指導し、規則正しい生活習慣を身に付け、主体的に充実した学校生活を送ることができるよう啓発する。 ・毎朝の立番と登校指導を通して、声を出して挨拶する習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年と協働して遅刻指導を行うことができた。学校全体は昨年度と同様の遅刻数となっているが、上位学年になるにつれて増加傾向にあるため基本的な生活習慣を身に付けさせるために継続して啓発が必要である。 ・声を出して挨拶をする生徒が、毎日の立ち番指導を通して増えてきていると感じている。今後も継続して挨拶指導を進めていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止と早期発見 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針に基づいて、学校生活実態調査や面談を実施するなど、兆候を見逃さず、安全安心な学校生活を送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における実態調査をWEBで実施した。生徒の生活実態を把握するため、調査結果を学年と有効活用している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導及び身だしなみ重点指導を通して、正しい着こなしを促しながら、学校生活と私生活のけじめをつけさせる。 ・式典や集会などで身だしなみ指導を実施することを通して、TPO を踏まえさせ、よりよい集団の雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での感覚が残っている生徒が若干名おり、学校生活と私生活との分別をつけさせるためにも、集会だけでなく普段の学校生活において全職員での継続的な声掛け指導が必要と感じている。 ・全職員が同じような意識を持ち生徒を指導していく雰囲気を作っていきたい。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導 (生徒指導部)	・交通安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の立番と登校指導を通して交通安全を啓発する。 ・熱田警察署及び地域住民と連携して交通安全講話を実施し、交通ルールを確認させ交通安全意識を高める。 ・「自転車無事故無違反ラリー」へ参加することを通して交通安全意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、幸い大きな事故は発生していない。しかし、交通マナー等について学校に連絡をいただくことが多いので、継続して生徒への発信をしていくことが重要と感じる。 ・自転車のヘルメット着用努力義務化を受け、ヘルメット着用を推奨していく必要がある。
	・盗難防止	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重品の自己管理管理を徹底させ、安全安心な環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して自己管理徹底について発信していく。
図書文化 活動 (図書文化部)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって利用しやすい図書館運営を目指すとともに円滑に図書館の業務が行なわれるよう努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書が不在の図書館だが、教員と図書文化委員で協力して、図書館開館時間にきちんと開館できるように努める。 ・生徒が親しみをもって図書館を利用することができるよう、館内ディスプレイや本の配置を工夫する。 ・生徒の図書館への関心を高め、読書への意欲を高めるため、『図書館だより』や『図書館報』等を通しての広報活動、「図書館まつり」等の図書館行事を行う。また、各教科との連携を図る。 ・利用状況の分析や生徒からの聞き取りを通し、生徒の読書傾向を把握し、より多くの生徒の利用を促せるような蔵書を充実させる。 ・本の紹介、多読指導等、生徒への具体的な読書指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は校務補助員が一名配置された。検査中や業後の開館が例年に比べスムーズに行われており、利用者増につながっている。 ・新着図書のポップを館内と保健室にも設置し、新着本の周知に努めた。 ・図書館だよりを定期的に発行し、開館時間や新着図書の案内、図書への関心を高めることが出来た。 ・図書館祭りは、人気の企画を継続し、来場者、貸出数を増やすことが出来た。 ・多読指導、総合（切り絵）など、授業でも図書館を活用することが出来た。 ・昨年に引き続き、除籍を行った。今年は各教科の先生方にご協力をいただき、除籍本の選定を行い、図書館の整理を行った。
学校保健 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全確保と整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に施設・設備の安全点検を行う。 ・必要に応じて施設・設備の修理・改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備に関して、定期的に点検および修理、改善を行い、生徒や職員の活動に支障のないよう努めることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内美化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別、清掃活動を通して環境にやさしい生活を考えさせる。 ・より丁寧な清掃を行う。 ・通常清掃および年4回の大掃除を行う。 ・除草・屋外清掃を随時行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別、丁寧な清掃活動を行うよう、年間を通じて全体にはたらきかけることができた。 ・清掃状況に関して、概ね達成することができた。 ・予定通り、大掃除や側溝清掃等の屋外清掃活動を行い、校内環境美化に貢献することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断の結果から、自己の健康状態を把握させる。 ・保健委員会活動として、広報活動と学校祭「保健ブース」の充実を図る。 ・現職研修において、心身の健康についての知識と技術の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・所見のある生徒に速やかに通知し、健康状態を把握させることができた。 ・校内放送では健康に関する情報を発信した。保健ブースでは「セルフケア」について発表できた。 ・現職研修では、外部講師を招いてエピペンの使用と心肺蘇生法のシミュレーション研修を実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー来校時に相談委員会を開催する。 ・「相談室だより」を発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー来校日に相談委員会を実施した。可能な限り学級担任にも参加していただき、情報を共有した。 ・必要に応じて相談室だよりを発行した。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態と進路希望を踏まえた、3年間を見通した進路学習の充実 在り方生き方の教育の充実と進路意識啓発の進路実現への取り組みの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 実力テスト、模試、「スタディーサポート」などを連動させて進路指導の資料とし、生徒が自ら学力到達度の目標を定めて主体的に学力向上を目指していけるよう進路指導体制を確立していく。 キャリア教育を充実させ、インターンシップや高大連携などを通して在り方生き方の教育を推進する。 大学入試改革に伴う変更点の情報収集と生徒、保護者、教員への情報の発信を積極的に行う。 第1学年から大学入試関係の講演会などを実施し、生徒の進路意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「スタディーサポート」は年度初めの生徒面談に有効的に活用することができている。実力テストと模試に関しては、事後指導にもう少し時間を使う必要がある。 インターンシップの受け入れ企業が増え、生徒にとって有意義な職業教育を行うことができた。 大学入試に関してはさまざまな情報に右往左往することなく落ち着いて指導することができた。 年度の終わりに進路説明会を予定しているので、進級するタイミングでの進路意識の高揚につなげたい。
特別活動 (特別活動推進部)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や学校行事を通し、生徒の自主的自律的な態度及び豊かな心を育成し、学校の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームと各委員会、議会、生徒会執行部が有機的な連携を図り、自主的自律的な活動が行われるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム・各委員会・議会・生徒会執行部との緊密な連携をした結果、さまざまな制限から明けた文化祭であったが、一般の招待者を多く招くも大きなトラブルなく行うことができた。 体育祭を10月に移動したが、熱中症の心配もないため気持ちよく行うことができた。安全のための決断であったが、生徒の安全を守るために今後もこの時期で続けていけるとよい。
渉外 中高大連携 (企画部)	<ul style="list-style-type: none"> 連携プログラムの充実 学校生活の校外への積極的な発信 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校や大学などの校外との渉外に努め、具体的な方法を企画し、各分掌・学年と協力のうえ、総合的な学習の時間及び長期休暇中に連携プログラムを実施する。 部活動紹介をはじめ、学校行事ごとにHPを更新し、情報開示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携プログラムの内容を、学問別10講座開講とし、より専門的なものとなるように企画することができた。今年度行ったうえでの反省を活かして、より大学との連携の意義を生徒へ還元できるようなプログラムへ昇華していきたい。 I Loungeの一般生徒の活用推進を目的としてAtsuta Informationの発行を始めた。これにより、活用生徒も増加したので、このツールを活用してさらなる企画を打ち出していきたい。 部活動紹介の整備をはじめとして、学校行事ごとのHP更新を行うことができた。今後は生徒会行事だけでなく、総合的な探究の時間や授業の様子など日常の更新も行っていきたい。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
(第1学年)	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識と社会性の伸長 ・学習習慣の確立と基礎学力の定着 ・キャリア教育、進路指導による目的意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・8:30 登校や提出物の徹底、そして身だしなみや日常の挨拶を、日々の声掛けを通して指導する。 ・英数国の教科担任から週課題・小テストを課し、教科担任、クラス担任、学年が連携することで、生徒の状況を把握し、取組の改善を促す。 ・LT、総合探究、学年集会、面談、模試などを通して進路に対する意識付けを図り、目的を持って高校生活を送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に適應できない生徒が目立った。転学者が増え、個別の対応が定期的に必要となった。1人1人に寄り添う指導が今後求められると感じた。 ・長期休業に担任団で協力をして、課題回収を行った。未提出者は業後に居残りをさせて提出を促した。最後まできちんとやりきらせることは大事だと感じる。 ・学年集会での意思疎通の機会を設けて、生徒にもっと発信できると感じた。生徒に伝える機会をもっと作っていきたい。
(第2学年)	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識と社会性の伸張 ・学習習慣の確立と基礎学力の定着 ・キャリア教育、進路指導による目的意識の育成 ・自主的・自律的な態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい制服着用や挨拶を意識するよう日々の学校生活の中で指導する。 ・週課題を通し学習習慣の定着を図り、定期テスト前の学習計画表を利用し計画的に学習する姿勢を身につけさせる。 ・LT、総合探究、学年集会などを通して進路に対する意識付けを図り、目的を持って高校生活を送れるようにする。 ・学校行事において、生徒が自主的・自律的に活動できるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻数が例年に比べ増加傾向にある。生徒指導を中心に学年団で協力しながら指導し、適切な生活習慣を身につけさせたい。 ・模試をとおして、進路に対しての意識付けができた。また、総合的な探究の時間での進路講演会、志望理由書の作成により進路への具体的な目標を立てさせることができた。 ・修学旅行では現別研修の計画を生徒自身に立てさせることで、自律的な態度の育成を図った。
(第3学年)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携し、生徒が進路実現できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般を通して、進路意識を高める。 ・進路指導部、担任団が情報を共有し進路指導を進める。 ・進路指導部と連携して、生徒・保護者に進路情報を提供し、系統的指導を継続する。 ・学習環境の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス毎、定期的に面談を行い、進路実現に向けて意識付けを行うことができた。進路指導部とも各学年会で情報共有をしながら進路指導を進めることができた。 ・遅刻、欠席が例年と比べ増える傾向があった。クラス担任、教科担当を通して対応しながら進路実現に向かう気持ちを作り上げる呼びかけを行った。
学校運営 (教頭)	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間労働による健康障害の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間を適切に管理する。 ・メンタルヘルスの保持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日の運用や毎日の戸締まりの時間が定着してきた。 ・業務の見直しを今後も続けながらメンタルヘルスの保持に努めていきたい。
学校関係者評価を実施する おもな評価項目		<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導方法の工夫改善 2 生徒の可能性を引き出した進路目標の設定 3 規範意識及び責任と義務の自覚の醸成 4 ホームルーム活動や特別活動、学校行事等の活性化 5 安全安心な学習環境の整備 6 業務の改善 	
総合評価	<p>新型コロナウイルス感染症の5類移行により学校生活は従来の活動に戻ろうとしているが、この経験より様々な行事や様式の見直しも行われてる。また、新教育課程2年目を迎え、授業の在り方や評価方法についても変化が見られる。今後も様々な世の中の動きにより変化すべきこともあるだろうが、変わってはいけない部分は大切にしていけるようにしていくことも重要である。</p>		

学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した 主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム編成を通じた学習指導方法の工夫改善及び生徒の学力伸長 ・規範意識及び責任と義務の自覚と醸成 ・安全で安心できる学習環境の整備
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ明けの学校生活だが、単純にコロナ前に戻ったというわけではなく、コロナの経験を生かしつつ、より良い学校生活になるように各所で工夫をしている。 ・新カリキュラムにおける評価や授業改善についてはICTの推進とともに継続的に取り組んでいる。 ・本校生徒の良さを生かしながらの学校行事の運営や地域との関わり方を模索し続けている。
<p>今後の改善方策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりを見るとともに、コロナ禍での経験不足を補いつつ、教職員を含め、健康で安全な学校運営を進める。 ・基本的な感染症対策を促しつつ、熱中症対策にも取り組む。 ・長寿命化工事と並行して、老朽及び危険箇所の早期発見早期対応を図る。
<p>その他 (学校関係者評価委員から 出された主な意見、要望)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動など課外活動の意義をどう捉えているか。ぜひその意義を経験できるように取り組んでほしい。 ・進路に関しては大きな変化があるか。中学校では、公立志向から私立志向への変化を感じる。 ・通学時間帯等の生徒の様子を見ると、挨拶もでき、交通ルールも守っているように見える。今後も継続して指導してほしい。 ・進路に合わせたカリキュラムや授業進度を実現してほしい。 ・制服のリサイクルがしやすいようにしてもらえると良いのではないだろうか。 ・学校行事も生徒主体でトラブルもなく、終わることができた。生徒が楽しそうに活動しながらもさらに良い点を伸ばしていってほしい。 ・熱田高校に来て良かったと思うと思う生徒が多いことは良いことである。 ・人工芝の維持管理については、今後も同窓会、PTA、学校とで継続して協議していきたい。 ・生徒の自主性に任せるだけではなく、特に3年生になったときには手厚い指導もあってほしい。 ・部活動など人と関わることもキャリア教育であり、関わりの中で気づき、振り返ることが大切である。いろいろな経験ができると良いと思う。
<p>学校関係者評価委員会の 構成及び評価時期</p>	<p>(構成) 学校評議員、PTA関係者、校長、教頭、事務長 (評価時期) 6月、2月</p>